

Project	地域協働専攻 国際協働グループ
A15	道南地域におけるアイヌの人たちのための地域支援
メンバー	[学 生] 上野 ひな / 加藤 歩夢 / 佐藤 瑠希 / 田尻 陽也 / 田中 春貴 / 田村 悠人 / 宮本 渚月 [担当教員] 山川 卓

### 【背景】

2019年に「アイヌ施策推進法」が制定されるなど、近年アイヌの人たちが置かれる状況の変化にともなって、アイヌ文化などに対する関心が高まっている。他方で、関心の高まりとは別に、実際にアイヌの人たちが継承してきた文化やたどってきた歴史についての理解が深まっているとはいいきれない。道南地域でも、アイヌの人たちが長く生きてきた歴史があるにもかかわらず、その事実はあまり知られてこなかった。

### 【目的】

本プロジェクトでは、道南地域の方々との交流を通じて、自分たち自身がアイヌ文化・歴史への理解を深めるとともに、道南地域でアイヌ文化を受け継いでいく、および広めるための支援を目的とした。

### 【概要】

本プロジェクトでは、施設訪問などを通じた学習を背景としながら、長万部町役場や、同町でアイヌ刺繍を学ばれている「チセの会」の方々の協力を得て、刺繍講座の受講や、運営の手伝い、作品の展示会開催などを実施した。

### 【プロセスと成果】

前期は、まず自分たちがアイヌの人たちの文化や歴史について学ぶ必要があると考え、函館市の北方民族資料館や白老の民族共生空間ウポポイなどの施設を訪問し、また、木彫り熊研究者の田村実咲氏に講義をしていただいた。アイヌの人たちが、昔どのような暮らしをしていたのか、どんな文化をもっていたのかを学ぶとともに、今の時代にアイヌの人たちがどのように生きているのかを知らなければならないと考えた。7月には、長万部町を訪問し、慰霊祭を見学させていただいた。

後期は、自分たちが学んだことを背景にししながら、アイヌ文化を受け継ぐ人たちとの交流、道南地域でアイヌ文化を広めるための企画を中心に実施した。10月にはチセの会の方々による刺繍講座を受講し、アイヌ文様の刺繍を学んだ。12月には長万部役場主催でチセの会の方々を講師とする文化講座の運営を支援させていただいた。1月には、チセの会の方々の作品を展示する会を函館市で開催し、2日間で60～70人ほどの来場者に来てもらった。

これらの活動の成果として、まず自分たちが道南地域のアイヌ文化・歴史について学ぶことができた。また、文化講座の運営の手伝いを通じて、長万部役場によるアイヌ文化を広めるための活動を支援できた。そして、展示会を通じて、アイヌ刺繍文化についてと長万部でのアイヌ文化保全活動について、函館市で知ってもらうことができた。総合的に、これまで長万部でアイヌ文化の保全に尽力されてきた方々の活動を中心にしながら、アイヌ文化を受け継いで広めるための支援活動を実践できたと考える。



【文化講座の様子】



【展示会場の様子】

## 【総括と反省・今後の課題】

前期の活動では、自分たちがアイヌ文化・歴史について学習することを中心的な目的として、文化施設に展示されている内容や、田村氏による講義などから、「アイヌ」と一言と言っても、地域や時代によって全く違う文化をもっており、また「和人」社会との葛藤を通じてももとの生活の仕方から変わらざるをえなかったり、木彫り熊文化などがあらわれてきたりするのだという理解が得られた。他方で、施設に行くときなど、何を目的としてどのような学習をするのが明確になっていなかったり、個々の知識は学んでも、全体像が明確になっていなかったなどの反省があった。

後期の活動では具体的な地域支援を活動の中心において、チセの会の方々とともに、文化講座の手伝いや展示会の企画運営などを行うことができた。こうした活動を通じて、道南地域でのアイヌ文化の継承と周知を支援する、という目的を、ある程度達成することができた。展示会の開催では、それぞれの刺繍作品の美しさが映えるような展示をできて、思っていたよりも多くの来場者に来ていただくことができた。反省点としては、事前にチラシを配ったりしたにもかかわらず、チラシを通じて来てくれた方はほとんどいなかったということである。集客方法や、展示の実施場所などは検討が必要だと考えた。

今後の課題としては、道南地域を中心とするアイヌの人たちの文化・歴史に加えて現状を学ぶ上で、色々な人から話を聞いてみたいということや、展示会のような催しものにどうやってより多くの人を集め、アイヌの人たちについて知ってもらう機会をもつと同時に、表面的ではない理解を得てもらうかなどがあげられる。

## 【地域からの評価】

### ・チセの会の方々の評価

作品を展示する場を作ったことを喜んでいただけた。また、文化講座の時に自分たちで準備したアイヌ文化に関するクイズが好評だった。

### ・展示会の来場者アンケートからの抜粋

- 「長万部の方々がとても熱心にとりくんでおられるのがわかりました。是非今後も末永く地域でがんばっていきましょう」
- 「これだけたくさん作品が並ぶととても見応えがあってよかったです。またぜひ開催してください」
- 「近くで見ると、少しはなれて見るとで、印象がちがうのが興味深かったです(着物)」
- 「一針一針たんせいこめた作品の数々に心が温まりました」

## 【新聞記事】

北海道新聞 朝刊地方(函館・渡島・桧山)「アイヌ文様 一針一針 長万部で体験会」2023年12月25日

## 【謝辞】

刺繍講座と展示会にご協力くださったチセの会の方々ははじめ、慰霊祭を訪問させていただいたアイヌ協会の方々、本プロジェクトの契機を作ってください活動を支援してくださった長万部町役場の方々、北方民族資料館と民族共生空間ウポポイのスタッフの方々、木彫り熊研究者の田村実咲氏ほか、多くの皆様からご支援、ご協力をいただきました。心から感謝を申し上げます。

## 【その他】

### 年間スケジュール

#### ■前期

- 4月 活動についての相談・計画
- 5月 北方民族資料館訪問、切り絵細工体験  
民族共生象徴空間(ウポポイ)訪問
- 6月 テーマ別学習  
木彫り熊研究者の田村実咲氏による講義
- 7月 長万部町アイヌ協会による慰霊祭の訪問  
前期の活動の振り返り

#### ■後期

- 10月 「チセの会」による刺繍講座を受講
- 11月 道南アイヌの資料学習  
長万部町文化講座開催準備・展示会企画
- 12月 長万部町「アイヌ文化講座 エカシケンル」  
開催支援
- 1月 チセの会作品「アイヌ刺繍展」開催  
活動全体の振り返り
- 2月 最終報告会